

## (22) こまつな

### ア 各病害虫の防除

萎黄病

白さび病

立枯病(リゾクトニア菌)

炭疽病

根こぶ病

アオムシ

コナガ

ネキリムシ類

アブラムシ類

カブラハバチ

キスジノミハムシ

## ア 各病害虫の防除

### 【留意事項】

(□は総合防除計画に掲載している病害虫)

### 萎黄病

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 抵抗性品種を選ぶ。

(薬剤防除)

- 1 土壌消毒をする([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)。

### 白さび病

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 雨よけ栽培をする。
- ※露地栽培で発生する。

※

- 5～7月、10～12月に降雨が多いと多発する。
- 2 収穫後の残さは丁寧に取り除き、畑にすき込まないようにする。
- 3 抵抗性品種を選ぶ。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発病初期に薬剤を散布する。

### 立枯病(リゾクトニア菌)

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 ほ場の排水性を高め、かん水過多にならないよう管理する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#) [【立枯病\(リゾクトニア菌\)】](#)・[【リゾクトニア病】](#)

- 1 薬剤を全面土壌混和する。
- 2 薬剤を散布する。

### 炭疽病

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 雨よけ栽培をする。
- 2 発病株は直ちに取り除く。

※露地の6～10月に降雨が続くと多発する。

※潜伏期間は3～4日でまん延が早い。

### 根こぶ病

---

・[共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)および[根こぶ病菌によるあぶらな科野菜根こぶ病の防除の項](#)を参照する。

(耕種的・物理的防除)

- 1 発病歴のないほ場を選定する。
- 2 連作を避け、あぶらな科以外の作物と4～5年以上のサイクルで輪作する。
- 3 発病ほ場では抵抗性品種を作付ける。
- 4 遊走子が根に感染するためには水が必要であるため、ほ場の排水を良くする。
- 5 水稲後作では高さ20～30cmの高うねとし、うね内の停滞水をなくす。
- 6 地温が18℃以上で発病するため、は種時期や定植時期を調整する。
- 7 pH7.2以上では発病が抑制されるため、土壌pHを矯正する。
- 8 罹病残さから休眠胞子が拡散するため、発病株は早期に抜き取り、ほ場外に持ち出して処分する。
- 9 発病ほ場から耕うん機等を移動する際には、機械に付着した休眠胞子を取り除くため、土をよく払い落とし、丁寧に水洗する。
- 10 ほ場内のあぶらな科雑草も伝染源となるため、除草を徹底する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 土壌消毒する([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)。
- 2 発病が予想される場合には薬剤を施用する。

## アオムシ

---

(予防に関する措置)

- 1 成虫の産卵を阻止するために、生育初期から被覆資材で覆う。  
※被覆資材の除去は夏季では収穫予定日の5～7日前に、冬から春は10日前を目安にする。
- 2 密度抑制を図るために、ヘアリーベッチ、大麦等を使用したリビングマルチを活用する。
- 3 あぶらな科植物で増殖するため、ほ場周辺の雑草(特にあぶらな科雑草)の防除に努める。

(判断、防除に関する措置)

- 1 発生予察情報、ほ場の見回り等に基づき、若齢幼虫時に薬剤散布等を実施する。  
※一般的に老齢幼虫ほど薬剤が効きにくい。
- 2 作物残さを適切に処分する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 RACコード確認し、複数系統の薬剤を使用する。
- 2 生物農薬は予防的に散布する。

## コナガ

---

(予防に関する措置)

- 1 成虫の産卵を阻止するために、生育初期から被覆資材で覆う。  
※被覆資材の除去は夏季では収穫予定日の5～7日前に、冬から春は10日前を目安にする。
- 2 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 3 交信かく乱剤を活用した防除を行う
- 4 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆を行う。
- 5 施設栽培においては、栽培終了後に蒸込み処理を行う。

(判断、防除に関する措置)

- 1 卵や若齢幼虫が寄生している葉を見つけ次第、除去する。
- 2 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
- 3 作物残さを適切に処分する。
- 4 生物農薬を活用した防除を行う。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発生が予想される場合には、薬剤を散布する。
- 2 コナガは薬剤抵抗性が発達しやすいので、農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。

## ネキリムシ類

---

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 薬剤を施用(土壌混和)する。

## アブラムシ類

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 近紫外線除去フィルムは成虫の飛来を減らす効果があるので、これらのフィルムを施設の外張りやトンネルに使用する。
- 2 施設では、側窓や天窓などの開口部に寒冷紗や防虫ネット等を張り、成虫の飛来を防ぐ。
- 3 マルチをする場合は、シルバーポリマルチなど忌避効果のあるものを使用する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 生物農薬は予防的に散布する。  
※天敵の放飼と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、[農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」](#)を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。  
※アブラムシ類の生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重

要である。また、アブラムシの種類と天敵の組み合わせによっては、効果が認められない場合がある。

## 2 天敵微生物製剤

※使用期間中にやむをえず他剤を併用する場合は、[農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」](#)を参照し、影響の少ない農薬を選択する。

※アブラムシ類の生息密度が高まってからの散布では十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの処理が重要である。

3 気門封鎖剤を散布する。

4 抵抗性の回避のため、異なった群から薬剤を選びローテーション散布を行う。

## カブラハバチ

---

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

1 発生初期から、薬剤を散布する。

## キスジノミハムシ

---

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

1 発生が予想される場合には、薬剤を施用（散布）する。